



<里山での自然とのふれあい～ウラジログライダーは飛ぶ！～>



Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

ならやまプロジェクト	1	字遊字感	7
Monthly Repo ならやま	2	病虫害講座	8
里山の今	3	Galleryならやま	9
虫だより・花だより	4	行事案内	10
夏だ休みだ里山で遊ぼう①レポ	5	幹事会報告・会員動向・編集後記	11
私の愛車遍歴半世紀	6		

ならやまプロジェクト

**明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて**

長い梅雨もようやく明けた。7月はコロナ禍に加えて雨にたたられて活動が思うに任せなかった。これからは暑さとの闘いが始まる。ワクチン接種した会員は多いが、コロナ禍は第5波がきたともいわれており、気を緩めることができない。参加人数、活動時間が少なく、作業が滞りがちではあるが、暑さ対策と合わせて、健康と安全を第一に、「無理をしないで」優先順位をつけて効率的に着実な作業を心掛けなければならないと思う。

8月には「夏だ休みだ里山で遊ぼう②」イベントが予定されている。そこで活用すべく学びの森の整備も進めている。今回もまた午前中限定での開催ではあるが、イベントを楽しみにしている子供たちのために、コロナ対策に十分に留意しながら、「力を合わせて」、オリパラに負けない有意義なものにしたい。

8月の活動に向けて 活動時間は9:00~12:00

- ① コロナ禍中での活動ルールの「厳守」と熱中症注意
- ② ビオ周辺の木道整備(8月イベントの水生生物観察までの応急整備)
- ③ 学びの森再整備(抜根整地と丸太を利用した機関車とウェルカムモニュメント設置)
- ④ 実りの森 給水タンク設置

協働活動: 8月5日 榎木天地替え アダプトプログラム

イベント: 8月21日(土) 夏だ! 休みだ! 里山で遊ぼう! ② (PIO 行事案内参照)

8月12日(木)は夏休み

8月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	榎木天地替え、イベント対応、枯死木伐倒、林内整備、薪割り、モニュメント対応 ユート: アカマツの森真砂土整備
エコファーム	冬野菜畑のチップ入れ・耕耘、サツマイモの除草、つる返し 桜島大根・葉牡丹・ブロッコリー種まき、スイカ・南京の撤収
景観	整備: BC周辺(イベント対応)・彩りの森草刈り整備、ミツバチ巣箱周辺整備 ビオ: 水路・池・木道整備(イベント対応)、西池水生生物調査 花: 大葉ギボウシ剪定、花壇の草取り、シャガ苗移植
パトロール	1~4コースパトロール、観察路整備・下草刈り、学びの森整備
果樹	給水タンク設置、実りの森除草、ブルーベリーと苗木の灌水、ウメの剪定、 鹿よけ対策

活動日: 毎週木曜日 9:00~12:00(当面の間は午前中)

前日水曜日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌金曜日、木曜日とも同予報であれば中止



Monthly Repo. **ならやま**

徳地恵男

6月24日(木) 活動 晴れ 70名

夏の花がならやまを彩る。大株のアジサイが青、白、赤紫に満開となり、半夏生(ハンゲショウ)の葉の変化が美しい。朝の会では夏のイベントの紹介と協力者の募集がある。

里山Gは学びの森のチップ作業、下草刈りをする。エコGはナス、ピーマンの支えとわき芽かき、里芋、スイカなどに追肥をやる。景観Gは学びの森、JR三角地の草刈り、ビオ班はビオ周辺の草刈りとザリガニの駆除をする。花班はサイクリングロード沿い花壇の除草、パートGはエントランス広場、ジュズダマ園の草刈りを行う。果樹Gはウメの収穫、実りの森、イチジク園の草刈りをする。この時期植物の生長が著しく、畑作業の手入れや草刈り作業がなかなか追い付かない状態が続く。



7月1日(木) 雨天のため休み

7月9日(金) 活動 晴れ 36名

梅雨前線の停滞で前週は休み。今週も雨のため振替活動となる。参加者は普段の半分と少ない。連日の雨で蒸し暑い一日となる。先週予定していた協働活動のシイタケ榎木の本伏せに全員で取り組む。組んだ竿竹にみんなで菌打ちをした榎木を交互に並べた。

続いて各Gの活動に入る。里山Gはイベントの準備として下草刈り、遊びの森の整備を行う。エコGはサツマイモの芋づるを移植、ナス、マクワ、オクラの採り入れをする。景観GはBC周辺の草刈り、西池では水生生物調査を行う。

花班は千日紅の植え付け、アジサイの移植を行う。パートGは丸太階段の補修、観察路の草刈りを行い、果樹Gはブルーベリーの収穫をする。



7月15日(木) 活動 曇り後晴れ 57名

明け方、大雨と落雷の荒天であったが、朝の会の頃には雨がやみ日差しが差すようになった。

17日のイベントを開催するため準備と打ち合わせを行う。遊びの森や散策路の草刈り整備、手作りのブランコや梯子登り、丸太渡りなど遊具の準備点検をする。昼前には参加スタッフがBCに集まり事前打ち合わせを綿密に行う。ならやま産の大きなスイカの初採りがあった。

7月17日(土) イベント 晴れ 26名

参加者35名(来賓2名含む)

「夏だ! 休みだ! 里山で遊ぼう! ①」が開催される。スタッフ全員で準備をすませ、元気な子供たちを迎える。前半はBC周辺で4つのグループに分かれて植物観察と昆虫観察をする。虫取り網を手にもって、草むらの虫を懸命に探す。案内の話にあったタマムシをエノキの傍で



見つけた子もいた。後半は里山に登り、ウラジロの葉を飛ばして遊んだり、遊びの森

ではブランコに乗ったり、木登りをしたりして楽しむ。梅雨明けの暑い日だったが無事に終わることができた。自然の中での貴重な体験の場を提供できスタッフにとっても充実した一日となった。

パトロールグループ



果樹グループ

◆ 観 察 路

菊川 年明

本会がならやまへやってきた当時は、山中に道らしいものはなく、わずかに踏み跡のようなものが途切れがちに南北に1筋続いているだけでした。そこを通るのはたいへん心細く、南の端、現在谷道の赤岳口と名付けている付近に辿り着けたときには「バンザイ」と叫びたくなるような心地でした。

やがてパトロール班が発足し、道（観察路）つけが始まりましたので、山中で不安になるようなことはなくなりました。しかし、樹木がうっそうと繁っていて暗く、朽ちた倒木がそこかしこという状態でした。今のように道が縦横につながるのはもう少し後のことです。

ほどなくカシノナガキクイムシの襲来があり、コナラが次々に被害を受け、倒木が続出しました。このような状態が5年ほど続いたのではないのでしょうか。木がたくさん倒れたので、その結果として空が見えるようになり、陽光が林内に射し込むようになりました。倒木は今も散発的ながら続いています。

林内に光が射し込むようになった結果として地面にササがはびこるようになり、道のササ刈りに追われるようになりました。道にササや草が生えるのは歓迎できませんが、コバノミツバツツジやモチツツジがたいへん元気になり、この両種のツツジのおかげで春先から晩春まで私たちの目を楽しませてくれるようになりました。林内の植生もだいぶ変わり、これまでなかった植物が目につくようになりました。さらに皆伐地区ができていっそう明るくなりました。丸太階段の資材は、当初は応急の措置として手近にあるソヨゴなどを利用していました。しかし、腐朽が早く、修理に追われるようになりましたので、最近防腐処理をした資材を購入して、取り替えが進んでいます。

◆ 実りの森の一年

衣笠 博美

果樹グループに入って1年余り、コロナ自粛で出来ない日もありましたが、1年を振り返って、なんと驚きの多かったこと！

最初は筍掘りでした。真白な大きな筍がゴロゴロ、豊作の年ということもありスーパーにも並ばないような立派な筍でした。秋には栗の収穫、苗木の植え込み、初めて見るチップパーという機械で、ホコリまみれになって大きな木を粉碎したり、驚きの経験でした。冬には梅の木とブルーベリーの剪定です。古川さんに丁寧に教えていただきドキドキしながらハサミを入れたものです。春に花芽がたくさんついた時にはみんなでヤッターの歓声をあげました。ついでに5年ぶりに剪定をした我が家のブルーベリーは昨年の倍？ほどの大きな実がつけました。小鳥たちの視線を感じながら毎朝収穫しています。感謝・感謝です。

1年を通して、足元の悪い斜面の草刈り、鳥や、鹿の被害など大変なこともあります。ベースキャンプから離れていることもあり、いろんな侵入者対策が皆さんの頭を悩まされるところだと思います。めげずに夢と希望を持ち続けるグループの皆さんは格好いいです。微力ですが実りの森果樹園の実現に参加出来ること嬉しく思っています。これからもどんな驚きや感動があるのか楽しみです。



虫だより



花だより

◆ 夏によく見るトンボ

菊川 年明

ショウジョウトンボ

出現期は4月頃から10月頃までです。西池でよく見かけます。オスは真っ赤で、眼(複眼)まで真っ赤です。それに尾のような腹部の幅が広いです。真っ赤なのはオスだけで、メスはオレンジ色です。

体色は赤いですがナツアカネやアキアカネなど、いわゆる赤とんぼの仲間ではありません。

名前についている「ショウジョウ」とは毛が朱紅色で長く、人面をした中国の想像上の怪物「猩々」です。



コシアキトンボ

出現期はこれも5月頃から10月頃までです。畑の上空を悠然と舞っています。尾のように見える腹部の付け根が、オスは白色、メスは黄色になっているので、空を飛んでいるのを見上げると、あたかもその部分が分断されて、空いているように見えるところから「コシアキ」の名がついています。



◆ 「クズ(葛)は善玉? 悪玉?」

坪井 都子

「クズ(葛)」は昔、大和の国(奈良県)吉野郡の国栖(くず)の人が葛粉を作って売りに来たことから、名前が付いたようです。

7/15 ならやまベースキャンプの西側の車道への坂面で早くも葛の開花を見ることができました。(右写真) →

「葛」と言うと、秋の七草・葛餅・葛根湯…と風情さえ感じるイメージです。美しい花をつけ、万葉集にも多く詠われるなど、日本人にはなじみ深い植物です。一方では有害植物の悪玉印象もあります。



◎クズはマメ科クズ属のつる性の多年草で10m 近く蔓を伸ばす。繁殖力が強く、日本各地の山野に自生、また温帯及び暖帯に分布する。葉は三出複葉で小葉は浅く2~3裂し、互生。葉の裏面には毛が密集。8~9月に葉腋から伸びた軸に総状花序をつける。花には芳香があり、花後できる果実は豆果で剛毛に覆われている。

◎クズは多方面に利用されてきた。根は良質のデンプンを蓄えるため、少なくとも江戸期には葛粉が料理や菓子にも使われるようになった。根元は木質化し地下では肥大し、長さ1.5m、径20cm 長芋状の塊根となり、葛根として採取され、漢方薬の生薬になった。蔓は籠の材料や薪の結束に使われた。茎の繊維からは葛布が織られた。葉は牛馬の飼料として重宝された。

このように、クズはさまざまな利用価値のある植物なのですが、繁殖旺盛で樹木などを覆いつくすため、若木の生長を妨げる有害植物となっています。でも葛そのものは善玉でも悪玉でもありません。クズ(葛)は抜群の生命力をもって生き抜く逞しい植物の一つなのです。

夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！①レポ

富江 文雄

7月17日(土)、ならやまのフィールドにおいて「夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！①」イベントを開催した。

奈良県が制定する「山と川の月間」中の協賛イベントだが、Green Gift 地球元気プログラムの正式イベントとして実施した。

子供17人、保護者16人、来賓2名、会員スタッフ26名の合計61人が参加した。一昨年まではお昼は飯盒炊爨(ハンゴウスイサン)もある一日の活動だったが、コロナ禍のために昨年(昨年は当会独自の開催として実施)からは午前だけの活動となっている。

早朝7時半頃から会場の設営を始め、テントを張り、会の幟、GGの幟を立てて、ベンチを並べるとすっかり準備完了。8時半頃から到着し始めた参加者は、受け付けて体温測定、手の消毒、マスク着用の点検をして、それぞれの班別の色テープを貼ってもらう。



9時ちょうど、富井ならやま委員長の司会で開催セレモニーが始まり、会長、来賓の挨拶に続き、スケジュール、安全注意事項の説明を行い、活動開始。

前半は里地での活動で、植物観察と昆虫観察に分かれ、それぞれを交互に体験した。

昆虫観察では梅林を中心にして昆虫採取を行い、トンボ、蝶、バッタ等、沢山の虫を捕まえ、虫カゴに入れ、昆虫に詳しい菊川さんや木村さんに同定してもらっていた。



植物観察ではビオトープの近くで、桑の木、エノキ、睡蓮、蓮等の詳しい説明を聞き、実際に手を触れることで学ぶことが出来た。

後半は里山での活動で、自然観察と里山での遊びをそれぞれ交互に体験した。

自然観察では自然林の成り立ち、この山での特性等を学び、シイタケ栽培の柵場を見学してシイタケがどのようにして育つのか、興味深く説明を受けた。



遊びの森では、自然の樹木を利用したブランコ、木登り、丸太渡り、ミラーウオークの不思議な光景等、うっそうとした木々の中での遊びを満喫した。

里山での活動を終えてベースキャンプに戻ると、子供たちにはお土産として立派なカブトムシがプレゼントされた。これはベースキャンプ周辺の堆肥用土の中に、前年に成虫が産んだ幼虫を3月頃に掘り出し、会員有志が丹精を込めて成虫にしたものである。

最後に、来賓からのお礼に続いて会長の閉会の言葉があり、この日の活動が幕を閉じた。

梅雨の明けた炎天下での活動ではあったが、何一つ事故も起きず無事に終了できた。

私の愛車遍歴半世紀

坂東 久平

免許を取ったのが1961年、最初の車は「スバル360」だった。61年間に16台の車にお世話になった。自家用車13台、営業用の社用車2台とY課長のパブリカだ。

1960年に就職し北九州市にいた。翌年東大卒のY課長が赴任、「これからは車の時代だ。皆免許を取れ」と言われ、職場同僚3人で免許を取りにいった。(当時は半年がかりの大仕事)

当時の月給が2万円に達しない頃であったが、12人でスバル360の新車(36万円?)を買った。1人1週間専用であったが、空いているときは借りることが出来たので、内2人の独身者(相棒のA君)で殆どの週日に利用していた。妻帯者の先輩達は仕事が忙しく遊ぶ間がなかったようで、非常にラッキーだった。



別府・由布岳をバックに

2台目は中古のオースチンA50(1958年型)で寮の仲間4人の共有、運転席の下辺りに大きな穴が開いており、土道を走ると土煙が舞い込んだ。それでも博多や別府へ出掛けていた。セルが故障し、クランクでエンジンを掛けていたが、廃車し4万円のすき焼きとなった。

3台目は中古のキャロルで初めての個人持ちになり、1964年から5年間乗ったがエンジンが壊れ、中古のエンジンに積み替えて(本来は違法)走った。

1964年に結婚した。お祝いにY課長が新車のパブリカを貸して下さり別府・宮崎に3泊4日ドライブをした。この時は小倉の消防署の方に追突されるというハプニングに見舞われて、新車を傷つけ申し訳なかったです。

4台目フェロー(1969)、5台目カローラ(1973)は新車になった。

6台目は横浜単身赴任用に同僚のS君から譲

られたアルト(1982)で5年間お世話になった。

単身赴任が終わり、1986年に関連会社に向し大阪勤務となった。カローラには13年お世話になった。7台目はリース落ちのスタンザ(1986)であったが、息子が壊して廃車となる。8台目に一度は乗ってみたいと思っていたスカイライン2000GTを中古で購入した。(1987)走りは素晴らしく、遂に北陸自動車道でネズミ取りに掛かり罰金と免停3か月を食らってしまった。(時速155K)

9台目の新車：ギャラン(1989)は8年間走ったが、タイミングチェーンが切れて動かなくなった。

1997年に定年となり、2005年までY社にお世話になった。大阪支店勤務であったが、大阪以西の営業を担当した。通勤と営業に社用車の使用が許され、マークII(1997)、カルディナ(2001)の2台に乗った。

10台目はマークIIクオリス(1997)の新車で3ナンバーに相応しく乗り心地はすこぶる良好であった。

大気汚染などの環境対策が叫ばれるようになり、11台目はハイブリッドのプリウス(2006)で、納車に6か月掛かったが、燃費は素晴らしく、満タンで岡山・矢掛と奈良の間を2往復出来る程であった。

ソロソロ運転を止めようかと思ったが、家内がどうしても車が必要と頑張るので、12台目は2017年に小型のアクアに買い換えた。この車は余り良くなかった。



2020年8月にヤリスGグレードを購入した。小型ながら安全対策のセンサーが沢山付いており、年寄りには安心。オートクルーズ付きで、高速道路では自動運転が可能だ。

83歳になるので、これが最後の車になると思う。60年間で車は進化し私は老化した。



白寿の寂聴さん

岡田 安弘

俗界にいては遊興に走る。入社試験に挑む我が身を深山に隔離しようと腹をくくる。比叡山の頂から琵琶湖側への険しい斜面。天台宗総本山延暦寺の寺々が広がる。東塔(とうとう)、西塔(さいとう)、横川(よかわ)の3つの境内からなる。根本中堂がある東塔の端、崖に沿って宿院があった。

今は延暦寺会館というホテルになっている。当時は木造2階建て、40室ほどの信者宿だった。就職浪人が、ここで1年近く暮らす。精進料理の板前さんと、まかないの女性10人ほどが麓から坂本ケーブルで通勤していた。

当時の宿院主任、武覚円・僧正と父親が懇意で、空き部屋を借りることが出来た。武主任は後の大僧正。51歳で出家した作家、瀬戸内寂聴さん(権大僧正)の師でもある。初の修行で2か月間、横川に籠る寂聴さんを指導する。

修行僧と学問僧

未明、宿院の窓。特異な形の笠を手に、杉木立に消える白装束を垣間見る。それが千日回峰行の僧だと武主任に教わる。死に装束に蓮華笠、素足にワラジ姿。5年間、十六谷と言われる険しい山中を毎夜巡拝。さらに2年間の断食、断水、断眠の行が待っていると聞き、思わず背筋を伸ばす。叡山には学問僧と修行僧の二派があることを知る。

ほどなく、学問派の青年僧、今出川行雲さん(立命館大4回生)と相部屋になる。卒論を書いていた。今や大僧正。昨秋、京都・山科の天台門跡寺院・毘沙門堂住職に就任。天台宗の最高位・座主(ざす)の登竜門である戸津説法師のひとりだ。

当方は大浴場の薪焚きや大食堂の配膳、寺男のように働く。食費、宿賃免除の返礼のつもりだ。3食、精進料理で通す。「体がもつまい」と

親友が牛肉を差し入れに来た。心配無用と持ち帰らせる。見かねたか、まかないのベテランが「そんなに無理しなくても。お坊さんも自坊では普通の食事よ」と言い、食事に招いてくれた。1年間で下山したのは、この1回だけだ。

僧侶と般若湯

昭和31年、若い寺男が大講堂に放火した。以来、延暦寺は外部の者を受け入れなかった。「あなたの入山が認められたのは武主任のおかげ、感謝しないとね」。すき焼きをご馳走になりながら内輪話を聞く。「お山の湿気は座布団が腐るほど。お酒を呑む若い僧は口実に、般若湯(酒)で湿気を吹っ飛ばすと言ってるわ」。

僧位と上納金

あれから30年。瀬戸大橋が開通し、記念のシンポジウムを担当することになる。四国・徳島出身の寂聴さんにパネリストを依頼するため、嵯峨野の寂庵を訪問。挨拶もそこそこに「昔、武覚円さんにお世話になった」と打ち明ける。「ご存じ？」と身を乗り出す寂聴さん。60歳代の半ばだった。

横川の厳しい修行を振り返る。話が一段落した。「僧位は要らないと言っているのに、順に上げて来るの。そのたび上納金が高くなるのよ」。豪快に笑い飛ばす。他宗派に比べて檀家寺が少ない天台宗にとって、人気作家は願ってもないドル箱だ。

10年ほど前、脊椎圧迫骨折で入院。TVの「徹子の部屋」で、激痛の様子を語る姿が目につく。「もう神も仏もないと思ったわ」。尼僧らしからぬ、開けっぴろげな話しぶり。昔と少しも変わらない。

あの世への覚悟

5月15日、白寿を迎えた。恋多き波乱の半生。残された半世紀、尼僧として仏の道を説く。執筆意欲なお旺盛、今も5編の連載を持つ。朝日新聞の連載「残された日々」に書き残す。「人道の間違いも罪の罰も老いの一身に受け止めて、あの世の地獄へ堕ちようと思ひ定めた」。

病害虫講座-42

(菜類の病害虫)

木村 裕

菜類(コマツナ、大阪シロナ、チンゲンサイ、ナバナなど)の病害虫は、ダイコンやハクサイなどと共通しているものがほとんどです。

【白さび病】

葉の裏に白色の少し盛り上がったカサブタのような物ができます。何か虫のような物がついたかのように見えます。発生初期は白色～黄色の小さな斑点がいっぱいできますが、被害が進むにつれと斑紋状に盛り上がってきます。

予防策としては、アブラナ科野菜の連作を避け、症状の出た葉は拾い集めて処分します。



【白班病】

葉に直径 5～10 ミリで白色～黄色の円形の斑紋がいくつも現れます。しかし白さび病のように盛り上がることはありません。

予防策としては、アブラナ科野菜の連作を避け、被害葉は拾い集めて処分します。



【ナガメ】



黒色と黄色のツートンカラーの綺麗な虫で、葉の上をうろうろしています。葉

に口ばしを刺し込んで汁を吸うため、その部分の色が抜けて斑紋のように白っぽくなります。実害は低いので無視しましょう。

【ハイマダラノメイガ】

株の中心の葉が糸で綴られ、新芽の部分がごっそり食べられます。被害が大きいので、発生したときには殺虫剤散布をしてください。

【ヨトウムシ、アオムシ】

葉をばりばり食い荒らし、葉に大きな孔をあけます。被害に気づいたら葉裏を調べて虫を捕殺します。

【ダイコンサルハムシ】

直径5ミリ前後の青色の円い虫(成虫)が葉



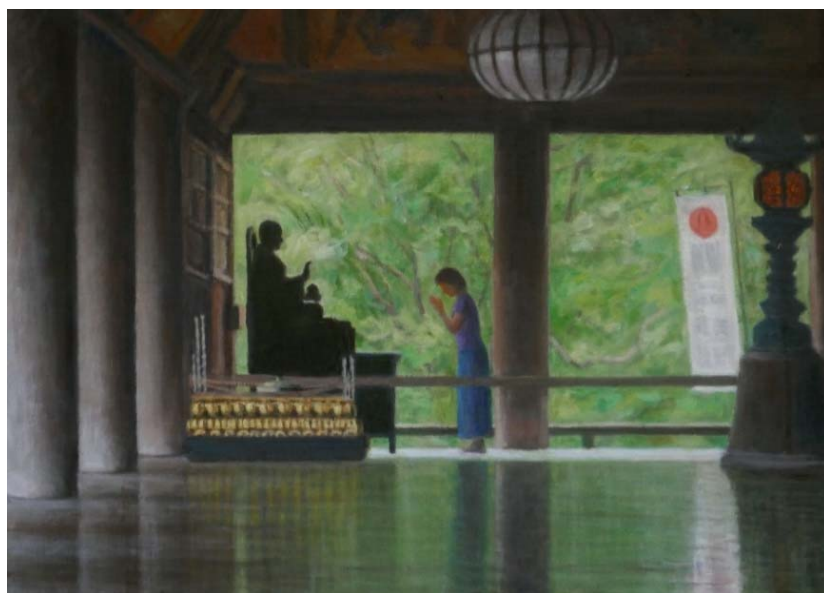
に小さな穴をあけます。幼虫は黒っぽいウジ

のような虫で葉の裏にいます。実害は低いので無視しましょう。

【カブラハバチ】

黒色のアオムシのような虫が葉を食べます。被害が目には余るときは手で捕殺します。とくに苗が小さい頃は要注意です。





▲油絵 p10号 床あおば(長谷寺) 小田進八郎



▲陶芸 兄弟ネコ 小島武雄



2021.7.17 'アオリユゼツラン'

▲スケッチ アオノリュウゼツラン 梨本哲

※アオノリュウゼツラン

原産地：メキシコ

花は数十年に一度だけ開花し、
結実後に枯死します。

大阪市立大学附属植物園(私市)
で、4mくらいの高い木の上に
咲いています。

スケッチはこの
先端部分です



掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

行事案内



8月自然教室のご案内

「平城宮跡 燕の^{ねぐら}埒入り」観察

富江 文雄

昨年はコロナ禍で中止しましたが、今年はこの時期にしか見られない「ツバメの埒入り」観察会を実施します。



渡り鳥の典型としてのツバメは、ご存じの通り、春になると東南アジア方面から次々日本に渡って来て、家の軒下などに巣を作り、2～

3度子育てをします。

8月に入ると「渡り」の準備に入り、沢山の餌を食べると共に、夕方にはヨシ原に飛来して集団で夜を過ごします。これを「ツバメの埒入り」と呼びます。

なぜこのような行動をするのか、今のところ分かっていませんが、全国各地で見られます。

平城宮跡のヨシ原は広く、集まるツバメの規模が大きい為、関西で有数の「埒（ネグラ）」です。多い時には約8万羽が飛来すると言われ、我々のすぐ頭の上を飛び越して、ヨシ原に降りる光景は驚きと共に感激します。リピーターの方も多いかもしませんが初めての方、是非一度体験されてはいかがでしょうか。

実施要領

1. 日時：8月16日(月) 18:00～19:30
2. 場所：平城宮跡大極殿西側ヨシ原周辺
3. 持ち物：双眼鏡、飲み物、厚さ対策グッズ
4. 中止の判断：当日午後3時に雨が降っている場合、又はその後雨が予想される場合には中止します。
5. 担当：自然教室チーム。

富江 (090-9988-1446)又は
辻本 (090-4450-8459)

皆さまの参加をお待ちしています。

「夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！②」

福田 美伸

奈良県が制定した「奈良県山の日・川の日」・「山と川の月間」の趣旨に賛同し、8月21日(土)、下記要領にて Green Gift 地球元気プログラムの公開イベント第2弾を実施します。夏休みの楽しい思い出を是非作ってください。ならやまのスタッフ一同お待ちしております。なおコロナ禍のおり、参加人数制限、状況変化によりイベント内容の変更も考えております。詳細は8月5日以降発信の当会HPをご参照ください。

実施要領

1. 日時：8月21日(土)
9:00～12:00(受付開始 8:30)
前日19時前のNHK天気予報で奈良県北部の降水確率が50%以上の場合は8月28日(土)に延期します。
2. 場所：ならやまベースキャンプ
3. 内容：水性生物観察、植物観察、里山遊びなど。
4. 参加費用：無料
5. 募集人数：小学生のご家族合わせて30名
6. 申込方法：8月5日よりメールにて受付。
メール宛先：event@naranature.com



2021年7月度幹事会報告

日時：2021年6月29日 15:00～17:00

I 会計、総務部より

- ・会員動向：退会1名、会員161名
- ・会計報告：収支報告あり

II 活動・行事関係

- ・普通救命講習会は中止
- ・3ヵ月スケジュール 五輪開催で祝日の移動

※ならやまプロジェクト関係

＊7月活動予定

- ・協働活動は椎茸ホダ木の本伏せ
- ・田のコナギ除去はエコGで行う
- ・自然観察路に倒木多く一般会員は立入禁止
- ・学びの森広場の抜根整地に着手
- ・第2駐車場の北側には駐車しない
- ・夏だ休みだ！里山で遊ぼうイベント開催
- ・モニュメントについて：機関車とウエルカムモニュメントを学生と共同制作で進める
- ・参加者が減少しており、全体に作業が停滞気味

III 企画、助成金事業案件

- ・図録：7/8活動後に会議をする。子供たち対象とし発展的学習分は追加冊子を考える
- ・記念誌：外部への寄稿依頼先決定
5年間を中心に振り返る座談会を企画
- ・会員向けアンケート：会報誌8月号に同封
- ・各種助成金についての状況説明あり。

IV 広報、関係

- ・ネイチャーなら8月号編成案の確認他

V 報告、連絡事項、その他

- ・月例研修会 8月は中止、10月大台ヶ原一泊研修予定
- ・自然教室 8月ツバメの罅入り検討中

8月度幹事会：7月27日(火) zoom 会議



<未熟な編集者>

携帯やパソコンのメールで文章を書くことがほとんどなくなっている。何かの申し込みなどで、名前だけ自筆している有り様だ。また、書かないことにより、文章を読む力も低下しているのではと不安になる。

会報誌で皆さまの原稿を編集させていただいている者として、申し訳ない思いがする。

一つの物事に対して、感じ方、表現の仕方など、人それぞれ違うし、さまざまな意見もある。

「コロナ禍により、新しい生活スタイルが生まれ、交友や考え方が変化し、古いものが一気に崩されてそれも前進になった」という記事を読んだ。コロナウイルス流行が悪いことばかりではないと奇妙に納得してしまったが、そんな理解をするだけでいいのだろうか？新しい生活スタイルとは？崩された古いものとは？何が前進なの？もっと深く読み取れないことにイラつく。

寄せられる原稿はもとより、さまざまな意見を正しく理解し、執筆者の思いを大切に編集しなければ・・・その気持ちだけは強く持ちたい。



会員動向

入会：7月15日 清原正彦

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

表紙写真：里山での自然とのふれあい

～ウラジログライダーは飛ぶ！～

7月17日夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！①イベントで里山の自然とのふれあいを楽しむ子供たち